

## 施設トマトの残さすき込みによる省力化

施設トマト栽培において大量に発生する残さは施設内ほ場にすき込むことで効率的に処理できます。すき込み処理の作業時間は、人力によりハウス外に搬出した場合に比べ約 15 分の 1 程度と大幅に短縮されました。上物収量は年次変動はありますが、すき込みの有無による差はみられません。なお、すき込みを行った場合は、適切な土壌消毒の実施による土壌病害等の危険回避が必要です。また、養分過剰蓄積についても、土壌分析の結果から、除塩作業等を実施することにより回避できると考えられます。

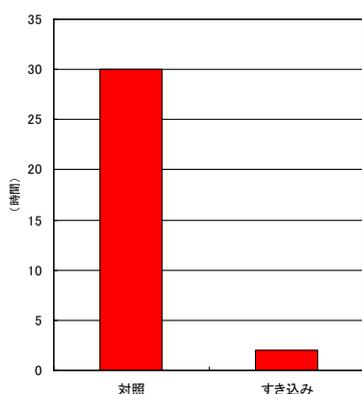


図1 ハウス(1400m<sup>2</sup>)当たりの作業時間の比較

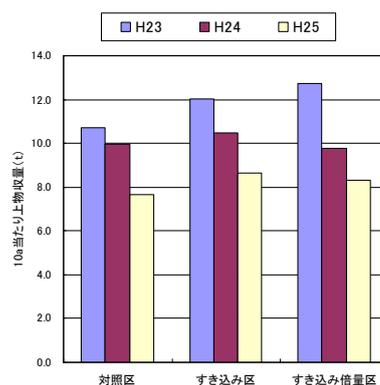


図2 処理区の違いによるトマト上物収量



図3 現地ほ場におけるトマト残渣すき込みの様子

表1 トマト跡地土壌の化学性

試験区	pH	EC (mS/cm)	交換性塩基			可給態リン酸 (mg/100g)
			CaO (mg/100g)	MgO (mg/100g)	K <sub>2</sub> O (mg/100g)	
供試前土壌	7.0	0.38	256	81	71	74.2
対照トマト跡	6.8	0.58	328	85	55	81.4
すき込みトマト跡(残さ2t)	6.5	0.55	335	87	40	80.2
すき込み倍量トマト跡(残さ4t)	6.8	0.65	351	97	57	89.4